

年降水量は二〇〇〇^{ミリ}メートルを超え、特に九州山地の南東部は三〇〇〇^{ミリ}メートルを超えるところもある。

(7) 亜熱帯気候区

黒潮本流の中に孤立した小さな島々から成っている種子島・屋久島地方から奄美諸島にかけての年平均気温は一九〜二二℃で、一月の月平均気温は種子島、屋久島とも一℃以上、奄美地方では一四℃以上となる。八月の最高気温は三〇〜三二℃で、ほかの気候区に比べて寒暖の差は著しく小さい。

年降水量は屋久島から奄美大島にかけては三〇〇〇^{ミリ}メートル以上で、特に屋久島は雨の多いことで有名である。

二 福岡県の気候区分

福岡県の気候は、大きく山陰型、瀬戸内海型、西九州内陸型の3気候区に分けられている(第19図) (藤元、一九八二、川添、一九九〇)。

(1) 山陰型気候区

福岡県北部沿岸地域の気候区で、冬季に北西季節風をまともに受け、風が強く曇りや雪(雨)の日が多い。このうち、北九州は工場群の存在による特殊な都市型気候を示し、特に北九州工業地区型と細分されている。

(2) 瀬戸内海型気候区

周防灘沿岸の豊前平野の気候型で、降水量が少ない。降水量は十一月から二月が少ない期間であるが、八

地で、福岡県においては昼と夜、夏と冬の気温の較差が最も大きい。夜間の風が特に弱く、放射冷却が大で、霧の発生が多い。霧は十～十二月が多く、夏季は少ない。

ii 有明海気候区

脊振山地、三郡山地、筑肥山地に囲まれ、有明海に面して広がる筑後平野の地域が属する。各季節とも最



第19図 福岡県の気候区分

(藤元 1982 ; 川添 1990)

月は県下で最も少ない。冬の天気は北部沿岸よりはよいが、四国、中国の瀬戸内海沿岸地方に比べると、その特徴はかなり薄れる。九州全体の気候区分では、山陰型気候区とともに日本海型気候区に含まれる。

(3) 西九州内陸型気候区

有明海沿岸の筑後平野と筑豊盆地がこの気候区に属する。気温は日中高く、夜は冷え込みが大きい。風速は弱く、内陸性気候を示す。

i 筑豊盆地気候区

三郡山地と福智山地に囲まれた筑豊盆

高気温が高く、最低気温が低い内陸型を示し、年降水量はほかの平野部より多く、特に夏季には多い。

第三節 福岡県の季節の変化

東に世界最大の海洋である太平洋、西に世界最大の大陸であるユーラシア大陸に挟まれ、かつ周囲を海に囲まれた日本列島は、世界の中緯度帯のなかでも特異的な気候を示す。それは四季の変化が際立っていること、それぞれの季節に特有の気候が現れることである。

ここでは春夏秋冬の四季に、雨季としての梅雨、秋霖の季節を加え、六季として福岡県の季節の変化を述べる。この項の記述には福岡管区气象台（一九九〇）に負うところが大きい。

一 春

二月中旬になると気温はゆっくり上昇を始め、福岡の日最高気温は一〇℃を超えるようになり、三月下旬までは時々寒の戻りを繰り返しながらに暖かくなっていく。西高東低の冬型気圧配置はしだいに少なくなつて、日本付近を移動性高気圧と低気圧が交互に通る、天気は周期的に変わるようになる。

春といえば穏やかな季節という印象があるが、日本の上空にはまだ冬の寒気が残り、春の大雪、春の風な